

学校プール施設のあり方 方針

水泳授業は、学習指導要領に基づいて行われており、基本的な泳力の習得や水の事故防止といった命を守る観点からも有意義なものと考えます。

一方で、本市の学校プール施設は、築年数が30年以上を経過しているものも多く、老朽化により、今後、保全や管理に係る費用が増大することが見込まれます。しかしながら、本市の財政状況は依然として厳しく、新たな教育課題への対応も求められる中で、学校プール施設の管理運営コストの縮減の可能性を、中長期的に検討していく必要があります。

また、近年の水泳授業では、天候等により水泳授業の実施ができない場合もあるなど、安全確保のための対策、温暖化による平均気温の上昇や熱中症のリスクなどの課題があり、施設の運転、管理等にかかる教職員への負担が生じているという現状もあります。

このような現状や課題を踏まえ、今後の方向性を以下のとおり示します。

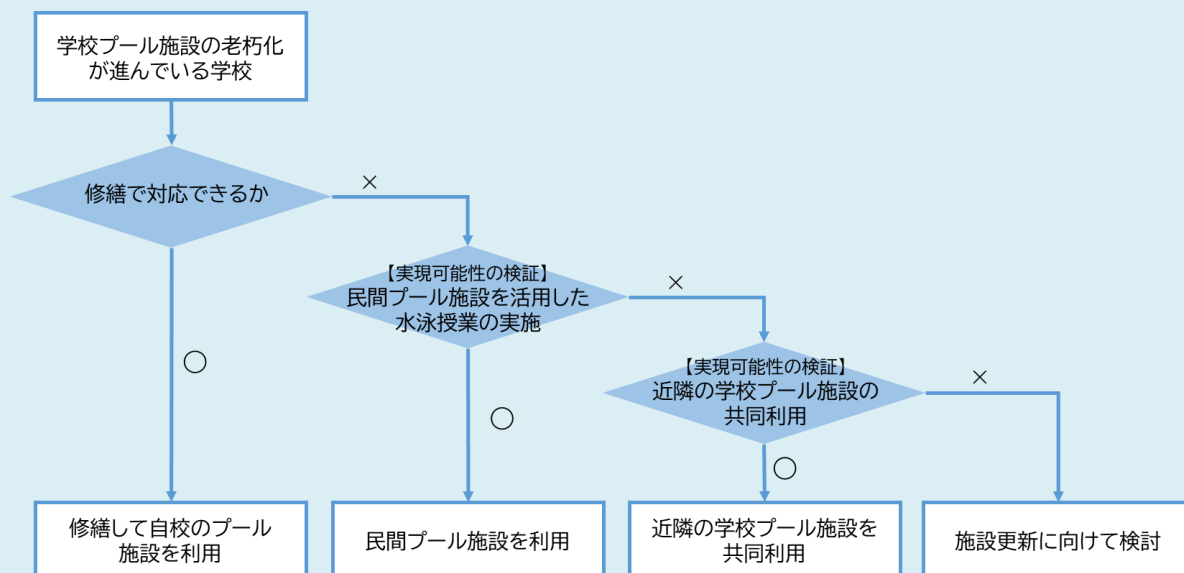
1 学校プール施設の老朽化に伴う対応

学校プール施設の老朽化に伴う対応にあたっては、教育施策全体における資源配分の観点から、多額の費用を要する施設更新の実施だけでなく、民間プール施設の活用や学校プール施設の共同利用など、様々な方策を検討する必要があります。

方向性

- 既存の学校プール施設は老朽化が進んでいるものの、学校施設は他にも課題を抱えており、相対的な優先度を考え、予防保全的な観点からの計画的な改築は行わないこととします。
- 施設の老朽化が進み、修繕での対応が困難と判断された場合は、学校とも調整しつつ、下記「学校プール施設の老朽化に伴う対応のフロー」に沿って、民間プール施設の活用や近隣の学校プール施設の共同利用の検討を進めます。
- 民間プール施設の活用や近隣の学校プール施設の共同利用が不可能な場合は、施設更新に向けて様々な要素も含め、慎重に検討を行い、速やかに結論を出します。施設更新が困難な場合は、改めてあらゆる可能性を探ります。

【学校プール施設の老朽化に伴う対応のフロー】



2 民間プール施設を活用した水泳授業

学校プール施設や水泳授業を取り巻く課題への対応として、近年、民間事業者との連携等、様々な手法に取り組む自治体が増えています。本市においても、民間プール施設を活用した水泳授業について検討していく必要があります。

方向性

- 今後も、水泳授業を通して、基礎的な能力及び事故防止に関する心得を身につけることとします。
- 学校プール施設の状況に関わらず、①学校と施設間の距離、②施設の受入人数、③コスト面の基本的な条件から、民間プール施設活用可能性がある学校については、個々の課題を整理しつつ、協議の上、活用に向けた検討を進めます。

3 中学校における部活動

学校部活動をこれまでと同様の体制で運営することは難しくなっていることから、現在、国の主導により、部活動の地域移行が進められており、本市においても、こうした国の動きも踏まえつつ、持続可能で効果的な部活動の運営を行っていく必要があります。

方向性

- 水泳の部活動は継続します。
- 実施形態について、施設の老朽化の状況も踏まえつつ、部活動の地域移行の検討の中で、拠点校方式(比較的新しい施設を用いた複数校による合同部活動)又は民間プール施設の活用による実施も検討していきます。

4 今後の見直し

今後、「学校プール施設の老朽化に伴う対応」「民間プール施設を活用した水泳授業」、「中学校における部活動」については、学校と協議しながら進めていきます。

また、水泳授業や学校プール施設のあり方については、状況の変化等にあわせて、取り組みをさらに見直していきます。